ボン・ボヤージ誌 創刊20周年記念インタビュー第一回

クルーズの輪（和）～出会いと感動～

ゆたか倶楽部のクルーズがきっかけで生まれた出会いや感動を会員の皆さまに語っていただきます。クルーズを通じて巡り会った船友をクルーズの輪（和）として、当インタビューをリレー形式で繋いでいただきます。インタビュアーはゆたか倶楽部創設者の松浦睦夫が務めます。初回記念にご登場いただくのは、仕事での乗船が興じてクルーズの魅力にはまり、ご夫婦で世界一周クルーズまで経験された漫才師の春日三球さんと奥様の和子さんです。

松浦　師匠との出会いは平成2年に農協コープみのり会の異業種交流会でしたね。師匠は「地下鉄漫才」で一勢を風靡した方で私の世代では有名だったので、ゆたか倶楽部が「旧にっぽん丸」をチャーターし日本一周クルーズを実施した時に乗船していただいたのが始まりですね。最初は漫才師の「青空うれし」さんと船の上だけでのコンビを組んで、チャータークルーズに12回乗っていただきました。その後はお一人で漫談をしていただきましたね。

三球　そう、もう27年も前になるね。ボン・ボヤージ誌が、創刊20周年と聞くけど、それよりずっと前なんだ。それから、新さくら、ニューゆうとぴあや、サンシャインふじ、ふじ丸など何度も呼ばれて、人使いの荒い松浦さんだから（冗談、本当は商売熱心な人です。）漫談だけでなく、いろんなイベントの司会までやったね。だんだん乗船が楽しみになって、船友の知り合いもいっぱい出来た。

松浦　それが興じて、奥さんと世界一周クルーズも2回参加されたわけですが、クルーズを通じての出会いや感動がたくさんあるでしょうから、いろいろお聞かせください。

三球　私が一番覚えているのは、先代の飛鳥が多いけれど、中でも平成7年に行ったオセアニアクルーズは良く思い出されるね。出発日の1月17日早朝に起きた阪神淡路大震災、横浜港出航なので、前日から横浜に来ていた阪神方面からのお客さんが「家は大丈夫かな」など心配していたけど、出航した後に連絡がついて、家がすごいことになっているので帰ってこなくていいから、そのまま乗って行っていいと言われたり、全く連絡がとれない方がいたり。といろいろな方がおりましたね。

松浦　私は当日、お客様の見送りに横浜港に行くため、早朝に家を出ました。その後地震が起こって横浜港へ向かう車の中でラジオから聞こえる被害状況が段々と大きくなり、港に着いた時は大騒ぎになっていました。

三球　この時、船内で一緒に乗っていた歌手の菅原洋一さんらと「元気になれ神戸！」ということで支援金を募り目標金額の百万円に少し足りなくて、船の乗組員の方やダンス講師などイベントの皆さんも協力してくれたりして集め、船側から支援金として届けるようにしたね。

松浦　師匠はいろんな船も経験されていると思いますが、飛鳥、飛鳥Ⅱでの世界一周やオセアニアクルーズで400泊以上乗られてますね。キャプテンは誰が多かったのですか。

三球　現在、飛鳥クラブの会長をしている幡野さんかな。でも私が一番覚えているのは付き合いの多かった商船三井客船の神津さんだね。長野の出身で、家を飛び出し自転車を押して上京した話から、お金を全部盗まれた話、当時のゆたか倶楽部の会員の皆さんは知っている話だね。話の最後に必ず、ハーモニカを吹くんだよね。なつかしいな。

松浦　そのほか船の上で出会った方は？

三球　一緒に乗り合わせた俳優の池部良さんや音楽家の高木東六さんが思い出される。高木東六さんが指導をしている、20名位のコーラスグループが中国の歌を合唱した。そうしたら隣に座っていた池部良さんが「これ、どこの国の歌？中国の？　違うよね。これ日本でもないしね」って真顔で言うから面白い人だ。

私が画家の岡本太郎さんにはじめて逢った時、「漫才の…」と言ったら「漫才？　知らない。万歳なら知っているけど。」って。この話を池部さんに話したの。そうしたら「あの人は変わってるんだよ」って。どうしてかっていうとね、絵を描いているのを見て「おじさん、これおじさんの絵？」って言って「うーん、これいいですね」って応褒めたら「君だって画家のおじさんだろ？」って言って「この絵はね、反対に見るのだ」って言うんだ。池部さんは「あの人の絵は分かんない？」って訳のわからないことを言ってた。本当に面白い人だったね。もう亡くなったけど。

松浦　社交ダンスも世界一周クルーズに乗られるようになってから始められたのですね。

三球　松浦さんに「客船に乗るのだったら社交ダンスが出来なければだめだよ。」って言われてダンスを習ったんだよね。世界一周の時にダンスの大泉ご夫婦が飛鳥のダンス講師で乗船していて知り合いになり教室に通いだしたんだよ。（後でゆたか倶楽部でダンス教室を開校）だんだん上手に踊れるようになり、自宅の改修に合わせて、2階に20坪ほどのダンスホールまで造ってしまいましたよ。松浦さんが言われたように客船に乗るんだったらダンスが踊れる方が楽しいね。今でもゆたか倶楽部のホールでやっている大泉先生のダンス教室には、ワコ（奥様の和子さん）が時々顔を出しているようですよ。

和子　私のところのホールでも大泉先生に二人で教えてもらっていたんです。フロアもすべて鏡張りで、音響もボーズ社のものも入れていますし本格的ですよ。

松浦　飛鳥Ⅱでのプライベート乗船は勿論でしょうが、私がチャーターしたクルーズの船内でも踊られましたね。

三球　今は体調をくずして乗船も間々にならないけど、復帰したら踊りますよ。足が丈夫になれば、船酔いはしないんだから。

船内でダンスを楽しむお二人。

松浦　師匠は船酔いしないんだ。

三球　船酔いしたことがないね。

和子　ないわよね。揺れた揺れたって喜んでいるんですもの。「あっ、船らしくなってきたって。」

三球　酒で酔っ払って酔うことはあったけど船に酔うってことは無かったね。

和子　揺れで思い出すのはタスマン海越え。あの海域はすごい揺れ、泣く、吠える、40度ぐらいの傾斜。つらい思いをし、そこを通過したら、あのミルフォード・サウンドの素晴らしい風景に感激ですね。あれだけ揺れを経験しても、行って良かったかなと思いましたね。

三球　まあ、だいぶ人にもよるでしょうが、感動はするね。

松浦　奥さんも師匠とクルーズには沢山、色々な場所へ行って、どこが一番思い出に残ったとか、ありますか？

和子　そうですね。やっぱりヴェネチアなんか良かったですね。

松浦　そうですか。それは二人で歩いたからですか。

三球　いや、別行動。それに船の時間まで帰ってこないんだよ。もう大変、みんなが心配して「あれ、師匠、奥さんまだ帰って来ないのですか？」って「うーん、よく見てないと危ないねぇ」って言っているところにパトカー先導で帰ってきたり。本当にドキドキしましたよ。

和子　買い物に夢中になって出航時間がせまっていて、タクシーに乗って船着き場に行ってもらったら飛鳥Ⅱでないところへ連れていかれ、居合わせたパトカーの人に聞いて、そしたら調べてくれて、パトカー先導で飛鳥Ⅱに無事到着したわけです。

松浦　出航は遅らせなかったですか。

和子　出航30分前位で遅らせはしなかったのですが、ただ乗組員の方々は、ハラハラだったようです。

三球　私はいつも「危ないから先に帰るよ」と言ってタクシー拾って、ひとり船へ。そうすると、まだ全然帰ってこないのだよ、平気なのだけど、一応心配なふりして「まだ、帰って来ない！」なーって。

和子　ヴェネチアは3回行っていますね。一泊したこともありましたよ。

松浦　では、世界一周の区間乗船もされているのですね。師匠は船の寄港地で良かったところはどこですか。

三球　世界一周では地中海が一番いいね。

松浦　そうですね。見所もあるし、歴史も深いですしね。世界一周クルーズは大体4月に日本を出発するから、地中海へ入るのが5月ゴールデンウィーク明け頃で、ベストシーズンなのです。

三球　サントリーニ島のあの辺は綺麗だしね。船が来ると大砲撃ったりしてみんなに見させて喜ばせたりしてね。来年飛鳥Ⅱが3年振りに世界一周クルーズをやると聞いたけど、やっぱり3カ月余り船でゆっくりと世界一周して来る醍醐味は忘れられない想い出だね。

松浦　上海から乗船した時の想い出話があると聞きましたが。

三球　仕事の都合で飛行機で行って、上海から乗った時の話。空港に着いたら中国人が迎えに来てくれていて、車に乗り港へ連れて行かれたら大きい貨物船ばっかりでビックリ、確かにいるはずの飛鳥Ⅱが居ない。防波堤に乗って見渡したり夕暮れ近くで心細くなったり。交通整理のおまわりさんも加わり、やっとわかって無事飛鳥Ⅱへ。後でわかったことだけど、最初に停まったところから、通常停泊するバンド（外灘）というところに移動したらしかった。今思うと中国人の親切が想い出されるね。

松浦　クルーズ乗船経験のうち3分の1が仕事、後の3分の2が奥さんとのプライベート乗船になると思いますが、師匠にとってのクルーズの魅力を教えてください。

三球　深くは考えないけど、「すべてが楽しいこと」じゃないかと思うよ。今度、東南アジアのほうに行こうって話してます。ゆたか倶楽部に10万円預けているので近々実現するのが楽しみだね。

松浦　お二人には今回はいろいろなお話を聞かせていただきありがとうございました。このクルーズの輪（和）インタビューはクルーズを通じて巡り会った船友をリレー形式で繋いでくのですが、次に登場していただく方をご紹介いただけますか？

三球・和子　それでしたら、世界一周クルーズでご一緒し、近所に住まわれている中塚享・孝ご夫婦を紹介しますね。

松浦　ということで、次回をお楽しみにお待ちください。

船長室で衣装をお借りして!!